

伝え合う力を高める指導の工夫

～相手意識をもった話し合い活動を通して～

1. 設定理由

本校の児童の実態をみると、学習における話し合い活動を好む児童は多いが、自分の考えや理由を話すことや、相手に分かってもらえるように話すことに苦手意識をもっている状況が見られる。また、自分では伝わっていると感じていても、相手にとってはそうでないことが多々あり、意思疎通がうまくいかない場面もある。

そこで、一方的に自分の考えを話すのではなく、相手に伝わるためにはどうすればよいのかを意識して活動させることにより、伝える力が育っていくのではないかと考え、本課題を設定した。

2. 研究仮説

○伝える事柄や伝える相手を明確にすれば、それに応じた伝え方を考え、スピーチできるであろう。

○時、相手、場に合わせた話し合い活動をさせることで、お互いに考えを伝え合うことができるであろう。

3. 研究内容

①4年生「写真をもとに話そう」でのスピーチの実践

②6年生「ひみつを調べて発表しよう」での1年生に学校の紹介をする実践

4. 結 論

○話し合うことが好きと答えた児童の数が増えた。話すことに苦手意識をもっていた児童が、話し合う経験を積むことにより自信をもって話すことができるようになった。

○相手に合わせて話すという意識が低かった児童が、相手に合わせた内容や話し方を考えたり、伝え方を工夫したりして、相手意識をもって話すことができた。

○伝える相手を明確にすることによって、自分が思うままに話すのではなく、聞き手を意識したスピーチや話し方をすることができた。

○互いに聞き合い、話し方についてアドバイスし合う活動を通して、より伝わりやすいスピーチや話し方をすることができた。また、今回身に付けたことを今後も活用していこうという気持ちをもつことができた。

I 研究主題

伝え合う力を高める指導の工夫 ～相手意識をもった話し合い活動を通して～

II 主題設定の理由

生きていくうえで、他者と目的に合わせて協力し合い、理解し合うことは不可欠である。その際に大きな役割を果たすのが話し言葉によるコミュニケーションである。友だちどうしはもちろんであるが、今後社会に出て行く子どもたちにとって、よき話し手・聞き手となることは重要であると考えられる。

国語科学習指導要領の目標においても、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」ことが掲げられている。話すこと・聞くこととしては、「伝え合うために」「相手に伝わるように」「伝えたい事柄や相手に応じて」「自分の考えが伝わるように」等といった内容が挙げられていることから、相手を意識して自分の思いを伝える力が求められていることが分かる。

本校の児童の実態をみても、学習における話し合い活動を好む児童は多いが、自分の考えや理由を話すことや、相手に分かってもらえるように話すことに苦手意識をもっている状況が見られる。また、自分では伝わっていると感じていても、相手にとってはそうでないことが多々あり、意思疎通がうまくいかない場面もある。

そこで研究主題を「伝え合う力を高める指導の工夫～相手意識をもった話し合い活動を通して～」と設定した。一方的に自分の考えを話すのではなく、相手に伝わるためにはどうすればよいのかを意識して活動させることにより、伝え合う力が育っていくのではないかと考え、研究を進めていくことにした。

III 研究仮説と手立て

仮説 1

伝える事柄や伝える相手を明確にすれば、それに応じた伝え方を考え、スピーチできるであろう。

手立て 1：伝えたい事柄の明確化

(1) 学習の見通し

- 学習のねらいやゴールを明らかにすることにより、児童に目的意識をもたせる。
- 学習内容を工夫することにより、伝えたいという意欲を児童にもたせる。

(2) スピーチメモ・原稿の作成

- メモや原稿を作成する際には、最も伝えたいことを記入する部分を設けたり、色で印をつけたりし、視覚的に話のポイントを捉えやすくする。
- 順序を入れ替えたり、付け足したりしやすいうように付箋やカードなどを利用し、話の構成を考える際に活用できるようにする。

手立て2：相手に合わせた伝え方の工夫

- (1) 全校朝読書で様々な本に触れることで語彙を増やし、国語の学習に生かすようにする。
- (2) スピーチ原稿の確認・付け足し
 - 伝えたいことが明確になっているか、相手に合わせた内容になっているかを確認させる。
 - 相手の反応を見ながら言い換えたり、問いかけたりする準備をさせ、話す際に臨機応変に対応できるようにする。
- (3) 効果的な伝え方の工夫
 - 絵や写真、グラフ等資料を相手に提示しながら話し、相手の視覚にうったえるようにする。タブレットを用いて、資料に書き込みながら話すことによって、より伝わりやすいようにする。
 - 間のとり方や声の強弱などを工夫し、相手や場に合った話し方を考えさせる。
- (4) 自己評価と聞き手からの評価を行うことにより、次回への意欲につながるようにする。

仮説2

時、相手、場に合わせた話し合い活動をさせることで、お互いに考えを伝え合うことができるであろう。

手立て1：具体的なモデルの提示

- (1) 全校で同じ形式の話し合いの仕方を掲示し、国語に限らず、いろいろな学習で実践する。
- (2) 学習内容や児童の実態に合わせた話し方や話し合いのモデルを示すことで、児童がスムーズに活動できるようにする。

手立て2：話したり聞いたりする場面の設定

- (1) 朝の会等、スピーチの場を適宜取り入れ、個人で全体に話すことに慣れさせたり、友だちの話したことに対して質問したりすることで、話したり聞いたりする経験を全員に積ませる。
- (2) 同学年の友だちだけでなく、他学年や保護者とも交流する機会を設けることで、様々な場面で自分の考えを伝えることができるようにする。

手立て3：互いにスピーチを聞き合う活動

- (1) 個人ではなく、グループとしての活動と意識させることで、友だちの発表にも目を向けさせる。
- (2) 友だちに相手を想定しながら聞いてもらうことにより、自分の伝え方を客観的に振り返らせるようにする。
- (3) 相手によく伝えるための視点を明確にし、それを共有することで、互いによりよい伝え方のアドバイスができるようにする。

Ⅳ 授業実践① 4年生

1 単元名 写真をもとに話そう

2 単元の目標

- ・相手に伝えるための工夫を考えながらスピーチをしようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・写真から読み取ったことを、相手に応じて、理由や事例などを挙げながら、適切な言葉を用いて話すことができる。(話すこと・聞くこと)
- ・表現したり理解したりするために必要な語句を増やし、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解することができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 学習の様子(13時間扱い)

本単元は、写真から読み取ったことをもとにして、話したり聞いたりする言語活動である。児童はここで、伝えたいことをはっきりさせて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話すことを学習する。1回目はクラスの友だちどうしでスピーチをし、自分の伝えたいことを素直に伝える経験をさせる。2回目のスピーチは2年生に向けて行うこととした。そのために2年生に伝わりやすい表現を考えさせる。3回目は、6年生に向けてスピーチを行う。2年生に向けたスピーチで用いた言葉をさらに取捨選択し、対象が変わることに合わせたスピーチを行わせる。スピーチ練習として互いのスピーチを聞き合う活動をする。この際、改善点を話し合ったり、アドバイスし合ったりすることで、相手意識をもった話し方を身に付けていくようにする。

【1時間目】今までの話し方の振り返り

日常生活でも学習でも話をする機会が多いが、自分の考えを伝えることができているか、また、それが相手に本当に伝わっているのかを振り返らせ、課題をつかむ。

児童が希望する学年に向けてスピーチをする学習計画を立てる。

<仮説1手立て1-(1)>

【2時間目】相手にわかりやすく伝えるために

自分の考えを相手に分かってもらうためには、どうすればよいかを話し合う。みんなから出た考えをまとめ、今後のスピーチではこれを意識して行うことを共通理解する。

<仮説2手立て1-(2)>

【3時間目】(1回目)友だちに向けてのスピーチメモの作成

てんとう虫とつくしの写真を見て、感じたことをメモにまとめる。(写真は全員共通のものを使う。)

感じたことを文章で表すことが苦手な児童に対しては、写真に写っているものを挙げさせたり、何をしていると思うか話させたりしてから文章を書かせるようにした。また、友だちの書いたメモを紹介し、参考にさせた。

【4時間目】スピーチ原稿の作成

伝えたいことをはっきりさせ、内容の構成を考えてスピーチ原稿を作成する。メモから原稿を作成することが苦手な児童に対してはモデルを示し、原稿を書きやすくする。その後、2時間目に作った話し方のポイントを参考にしながら発表の練習をする。

(資料4-1、2) <仮説2手立て1-(2)> <仮説1手立て1-(2)>

【5時間目】スピーチの発表

グループの友だちとスピーチを発表し合う。その際聞いたスピーチに対して、伝わりやすかったか評価をする。発表者は自己評価をする。 <仮説1手立て2-(4)>

自己評価をしてみると、相手に伝えたいことをはっきり伝えられたという児童はごくわずか、多くの児童が上手いかなかったと反省していた。次のスピーチは2年生に向けてということで、相手の立場になり、伝わりやすく話す必要性を子どもたちは実感した。
(資料4-3)

【6時間目】(2回目) 2年生に向けてのスピーチメモ・原稿の作成

写真は4枚の中から自分が興味をもった1枚を選び、スピーチメモ・原稿を作成する。

(資料4-4、5)

【7時間目】スピーチ

グループで互いのスピーチを聞き合い、よりよく2年生に伝わるようにアドバイスをし合った。この際、友だちにアドバイスするためには、相手の話をよく聞く必要があることを全員で確認した。アドバイスや改善点はスピーチ原稿に記入するようにした。(この際、違う写真を選んだ3~4人をグループにし、本番もこのグループで活動することとした。)

<仮説2手立て3-(1)~(3)>

友だちにスピーチを聞いてもらうことにより、一人では気が付かなかった自分の改善点に目を向けることができた。また、聞き手は、友だちにアドバイスするために真剣に聞こうという意識をもつことができた。1回目のスピーチでは自分が伝えたいことをそのまま話していた子どもたちであったが、今回の練習では、聞き手を意識した話し方の大切さを学ぶことができた。

【8時間目】2年生への発表

前時と同様のグループで発表を行った。2年生にもグループになってもらい、教室と生活科ルームの2か所で学習をした。

<仮説2手立て2-(2)>

本時は、練習や友だちからのアドバイスを生かして、2年生にスピーチを発表することができた。年下に対してということもあり、リラックスして取り組むことができた。優しく評価の仕方を説明したり、余った時間でスピーチの内容に関するクイズを出したりと、2年生に合わせて各グループで工夫して活動することができた。学習後には、「楽しかった」「またやりたい」という児童が多く、話すことへの意欲が高まった。

【9時間目】振り返り

2年生にスピーチを発表した後、活動の振り返りをした。「1回目よりも自分の考えが伝わった」「伝わりやすい話し方に気を付けて話すことができた」と自信につながった児童が多かった。しかし、「原稿やタブレットを見て話すことで精一杯になってしまい、2年生の様子や表情まで意識ができなかった」という感想も出た。

<仮説1手立て2-(4)>

児童の2回目の自己評価は上がり、伝えることができたという満足感が感想からもうかがえた。しかし、2年生から高評価を受け、自己評価が高まったというよりも、自分自身ができたと感じたことがその理由のようだ。あまり伝わっていないと感じていた2年生がいたことには気が付いていない。自分中心の評価で、聞き手からの評価は意識することができていないようであった。
(資料4-6)

【10時間目】〈3回目〉6年生に向けてのスピーチ原稿の作成

2年生にスピーチをしてみて、聞いてくれる相手の様子や表情まで意識する余裕がなかった点に子どもたちは気が付いた。また、生活するうえで、年上の人と話す機会も多いことに目を向け、3回目は6年生にスピーチをすることとした。

今回の内容は、前回2年生に対し行ったスピーチの言葉をさらに取捨選択し、6年生を対象としたスピーチにアレンジした。（資料4-7）〈仮説1手立て1-(2)〉

【11時間目】スピーチ練習

6年生に話すということで、児童たちは丁寧な話し方と礼儀正しい態度を心掛けていた。また、これまで気を付けてきた、伝えたいことがはっきりしているか、相手に伝わりやすい内容かに加え、話す相手の表情を見ることも意識した。そのため、原稿を見なくても、ある程度は話せるようになる必要があることに子どもたちは気が付いた。また、タブレットの操作も繰り返し練習し、スピーチをしながら余裕をもって扱うことができるようにした。

〈仮説2手立て3-(1)~(3)〉

【12時間目】6年生への発表

6年生へのスピーチは緊張したという声が多かったが、話す経験を積んできたためか、伝えたいことが伝えられたという児童が多かった。2回目のスピーチでは、相手を見えないという反省点があったが、今回は相手の顔を見ながら話すことができた児童が増えた。6年生からは、スピーチへの感想やアドバイスをもらうことができた。また評価カードに記入欄がなくても、自分が思ったことを書いてくれる6年生もおり、「さすが6年生」「6年生に聞いてもらってよかった」「緊張したけどやってよかった」という声が子どもたちから聞かれた。

〈仮説2手立て2-(2)〉

【13時間目】振り返り

前回のスピーチの振り返りでは、聞き手からの評価を反映した自己評価をすることができなかった。今回は、4年生が話すだけでなく、6年生に写真を見てどう感じるかを質問したり、スピーチへの感想やアドバイスをもらったりと双方向での交流をすることができた。そのため子どもたちは、6年生の評価を受けて、自分のスピーチを振り返ることができた。評価や意欲の面でも、聞き手から反応があることが大切であると考えた。

子どもたちは、クラスの友だち、年下、年上と3回のスピーチをすることで、自分本意に話すのではなく、相手に理解してもらうことの大切さを実感することができた。相手に伝わりやすくするために、話の内容や構成を考えたり、伝えるための手段を工夫したりすることを意識することができた。

これまで話すことに苦手意識をもっていた児童も、本単元の学習で自信をつけることができた。また、友だちのスピーチのよさに気づき、自分も今後こうなりたい・やってみたという意欲が高まった。（資料4-8、9）〈仮説1手立て2-(4)〉

授業実践② 6年生

1 単元名 ひみつを調べて発表しよう

2 単元の目標

・テーマにそって効果的に発表しようとしている。 (関心・意欲・態度)

・必要な資料を集め、調べたことを関係づけるなどして整理することができる。

(話す・聞く)

・調べたことについて、内容や構成の資料の示し方を工夫して発表することができる。

(話す・聞く)

・聞き手を意識して、言葉の選び方に関心をもって話すことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 学習の様子 (9時間扱い)

本単元は、5学年の学習である。本学級では、5年時から引き続き進めてきた。自分たちが考える「ひみつ」というものを、資料の選択、示し方を工夫して発表する学習にとりこんでいった。資料を活用して発表する活動は、3学年や4学年でも経験している。これらの学習を生かして、より効果的なプレゼンテーションとしての発表を経験させたいと思い設定した。そのためにも、より聞き手の存在を意識した場の設定が必要となる。聞き手の関心をより強く引きつけ、内容をわかりやすく伝える資料の効果やその示し方に目を向けさせたいと考えた。話題については、必要感をもたせるため、実際に役立つこと、児童がやりたいことを話し合った。そして、「1年生に川上小のひみつを紹介しよう」というテーマのもと、学習を進めていくこととした。

【1時間目】学習の見通しをもつ

まず、話し合っていく中で、これから最高学年になる児童に「新しく入学する1年生に向けて、川上小を紹介するのはどうか」と提案し、相手を1年生に設定することとした。それから、「川上小のひみつ」はどのようなものがあるか考えた。これを伝える学習であることを知り、学習の見通しがもてるようにした。 <仮説1手立て1-(1)><仮説2手立て2-(1)>

【2時間目】相手意識をもつ

1年生の実態を学級で出させたところで、「実際、今の1年生って何を知っていて何を知らたいのだろう」という疑問が出てきた。そこで、現1年生にインタビューをしてみることにした。そのために、聞くべき内容をそれぞれに考えさせ、学級で共通理解させた。まず、児童自身が「川上小ならでは」と思うことは何か、考えさせた。それについて、1年生は知っているのか、知りたいのか聞いてみることにした。一人ではあまり思いつかない児童は、友だちと相談しながら考えていた(資料6-1)。 <仮説1手立て1-(1)>

【課外】1年生への取材

休み時間を利用し、1年生にインタビューに行った。最初はどのように話して良いかわからなかったようだが、1年生の様子を見ながら聞いていった(資料6-2)。<仮説1手立て1-(2)>

【3時間目】情報の共有化

1年生のインタビューから、何を知らたがっているのか、みんなで共有した。そこから、自分たちが伝えたいことと折り合いをつけて、川上小について紹介するという共通理解を図った。

【4時間目(6学年)】自分たちの伝えたいテーマを決定する

昨年度を振り返りながら、新1年生に伝えたいことをそれぞれで考えた。休み時間の過ごし方や、勉強が好きなこと、好きなアニメ等はわかったが、自分たちが伝えたいことと結びつかなか

ったようだった。そこで、児童から「今の1年生にもう一度インタビューがしたい」という声があり、再度実施することとした。さらに質問内容を吟味して進めていった(資料6-3、4)。

【課外】新1年生へのインタビュー

今度は、自分たちが楽しい、伝えたいと思っていることを念頭に置き取材した。それでもなかなか話してくれない1年生もいたようで、児童なりに聞き方を考えていた。〈仮説1手立て1-(3)〉

【5時間目】自分たちの伝えたいテーマを決定する②

2回目のインタビューを終えたところで、最終的に伝えたいことは何か、決定した。同じ内容だった児童どうしてグループをつくった。最終的には、6グループとなった(資料6-5)。

【6・7時間目】発表のための資料づくり

グループの中で、「1年生に一番伝わる方法は？」ということで話し合った。それぞれ、模造紙、紙芝居、劇、参加型、ペープサート等、様々な発表方法が出てきた。相手が1年生だということをかかなり意識して、発表方法の根拠も、それぞれのグループでもつことができていた(資料6-6)。

グループの中で話し合い、どんな風に表現したら伝わるか考えていった。児童Dは友だちの意見を聞き、直す部分とそのままの部分に分けた(資料6-7)。〈仮説2手立て3-(2)〉

発表準備も後半になってくると、それぞれのグループで進度に差が出てきた。ゴールが見えてきたグループは、他のグループの発表が気になり出し、自然と見に行くようになった。そこで、1年生だったらこんな反応をするのではないかと想定し、1年生役となって、発表に参加した。そこでも自然と交流は生まれ、「1年生がうるさくなったらどうする?」「困っていたら?」「こんな質問するかもね。」など、相手意識をもって、準備に協力する姿が見られた。その児童も楽しそうに、発表に期待しながら進めている様子がうかがえた。そこでの交流によって、流れを見直したり、台詞を変えたり、臨機応変に対応する意識が出てきた。〈仮説2手立て3-(2)〉

【8時間目】1年生への発表

いよいよ、1年生への発表の時間となった。ブースをつくり、同時に発表し、ローテーションを繰り返す発表形式とした。〈仮説1手立て2-(2)(3)〉

改めて、1年生にどう伝えればよりわかりやすく伝わるかを問うた時、児童から以下の意見が出てきた。

それに基づいて準備し、発表した。どのグループも1年生と一緒に

- | | |
|---------------------------------|------------|
| ①「ゆっくり話す」 | ②「ていねいに話す」 |
| ③「敬語より、～だよの方が親しみがわいて聞いている」 | |
| ④「言葉だけではわかりにくいから、視覚からも分かるようにする」 | |

に参加させたり、問いかけたりする場面が多かった。それは、言葉だけではどこまで理解できるか分からなかったため、できるだけ相手に寄り添おうとした結果だったと考えられる。言葉だけで、伝えることができるのも表現力であるが、伝えるための方法を思考することも大事な能力である。そのことについて、それぞれのグループが思考し表現した単元となった(資料6-8)。

〈校外学習グループ〉(問いかけ)

校外学習グループは2つのグループで話し合い、紹介する校外学習が重複しないように工夫した。それは、1年生に興味深く聞いてもらえるように児童なりの思考である。どちらも紙芝居形式にして、1年生を引きつけた。一枚一枚丁寧に書かれ、視覚からも伝えていた。クイズ形式にすることはもちろん、難しいかもしれないと感じた内容については必ず問い返していた。これは、1年生には有効だったと考える。1年生の話も聞きながら、ゆっくり意識して話していた。自分たちが経験して楽しかったことや大変だったことなど、印象に残ったことを丁寧に伝えていた。

〈あいさつグループ〉(問いかけ)

このグループは、模造紙一枚にまとめて発表する形式をとった(資料)。しかし、それだけではなく、実際にあいさつ運動をしている姿を再現したり、どんなあいさつが気持ちの良いあいさつか、1年生に考えさせたり、1年生を巻き込んで、伝えていた(資料)。

〈運動会グループ〉(参加型)

このグループは、運動会の種目について説明した。幼稚園や保育園でやったことがあるかもしれないが、1年生ではこんな種目がある、ということで玉入れとリレーについて紹介した。それだけではよく分からないので、実際に一緒に体験させることを実践した。安全面は十分配慮し、ゲーム感覚で行った。6年生と一緒にということもあり、1年生もむきになることもなく、楽しんでいるようだった(資料)。

〈遊びグループ①〉(参加型)

このグループは、遊びについて紹介した。インタビューの中で1年生が一番興味をもっているのは遊びであるようにも感じられた。そのため、もっと遊びの種類を増やしてあげたいと考え、自分たちで調べたり、実際に試してみたりして、1年生が楽しんで安全にできるものを紹介した。児童Fは、普段の話し方とは全く異なり、ゆっくり優しく話をしている様子に驚いた。同学年と話をする際には見られない姿だった。これは、相手を意識している姿だと考えた(資料)。

〈遊びグループ②〉(参加型)

こちらの遊びグループも1年生に体験させる形式にした。遊びは実際にやってみないと面白いかどうかも分からないからである。まず、自分たちで手本を見せ、興味をもった1年生を参加させて一緒に楽しむという方法だった。常に1年生の様子を見ながら、伝わったかどうかを確認しているようだった。1年生から「わかった!」や「楽しかった!」という言葉を聞くと、ほっとしたような表情を見せた。

【9時間目】学習の振り返り

発表後、右の3つの項目を立て、振り返らせた。自分たちが気を付けたことに対して、相手が反応してくれると、喜びを感じているようだった(資料6-9)。このことから、高学年は、自分が伝えたことに関して、相手の反応を見て伝わったか判断していることが分かる。自分が伝えることはしっかり伝えた、で終わらず、相手の様子がかがってできたか考えているところは、異学年どうしでの伝え合いの力を習得することに有効だったと考える。

- | |
|---|
| 1. 発表に向けて工夫したこと 2. 1年生の反応 3. 実際に発表して思ったこと |
|---|

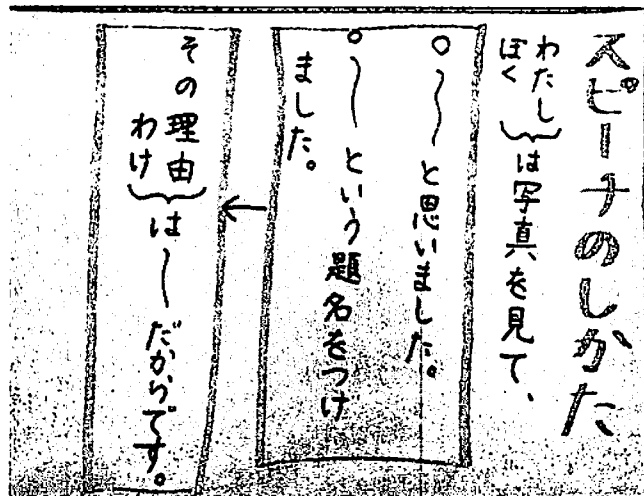
4 実践を終えて

児童にとって、相手意識をもたざるを得ないような場に設定できた。進めていくうちに自然と助言し合う姿は、この実践が効果的だったことを意味していると考えた。今回児童が実際に大切にすることは、「相手に問うて、反応を確かめながら進めること(問いかけ)」と「一緒に、実際にやってみる(参加型)」と結論づけられる。話し方、資料の工夫ももちろんだが、実際の相手がどのように感じながら聞いてくれたのか、伝えたい内容は伝わったか、確かめながら進めていた。これは、今までの積み重ねで話し合いの仕方がある程度身に付いていたことがさらに次のステップに進めたともいえる。同学年では、ここまでは行わない姿だった。

課題も見えた。発表することが主になってしまったグループもあった。内容が伝わったか、ではなく、きちんと聞いてくれたか、楽しんでくれたか、という表面上の反応しか見ることができなかった。これは、内容自体が、自分たちも相手も知っている事だったからではないかと考える。

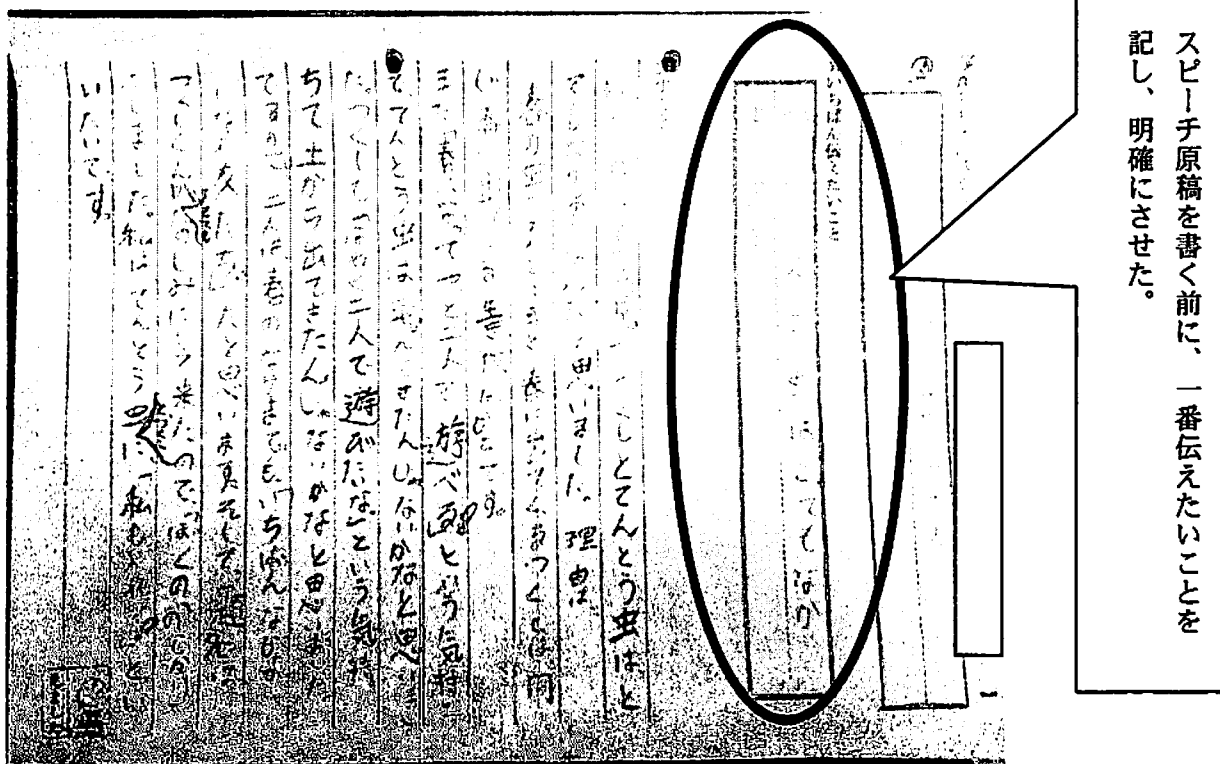
資料編

【資料 4-1】原稿の書き方のモデル



<仮説 2 手立て 1-(2)>

【資料 4-2】スピーチ原稿



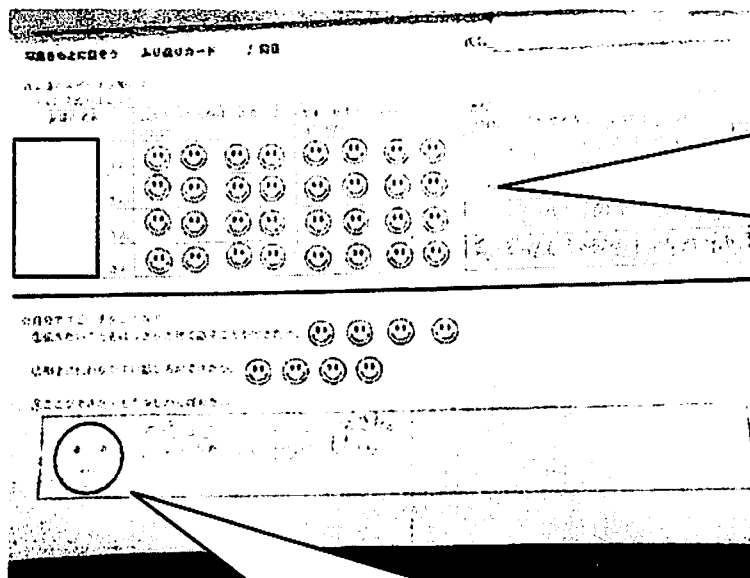
<仮説 1 手立て 1-(2)>

【資料 4-4】2 年生に向けてのスピーチで用いた写真



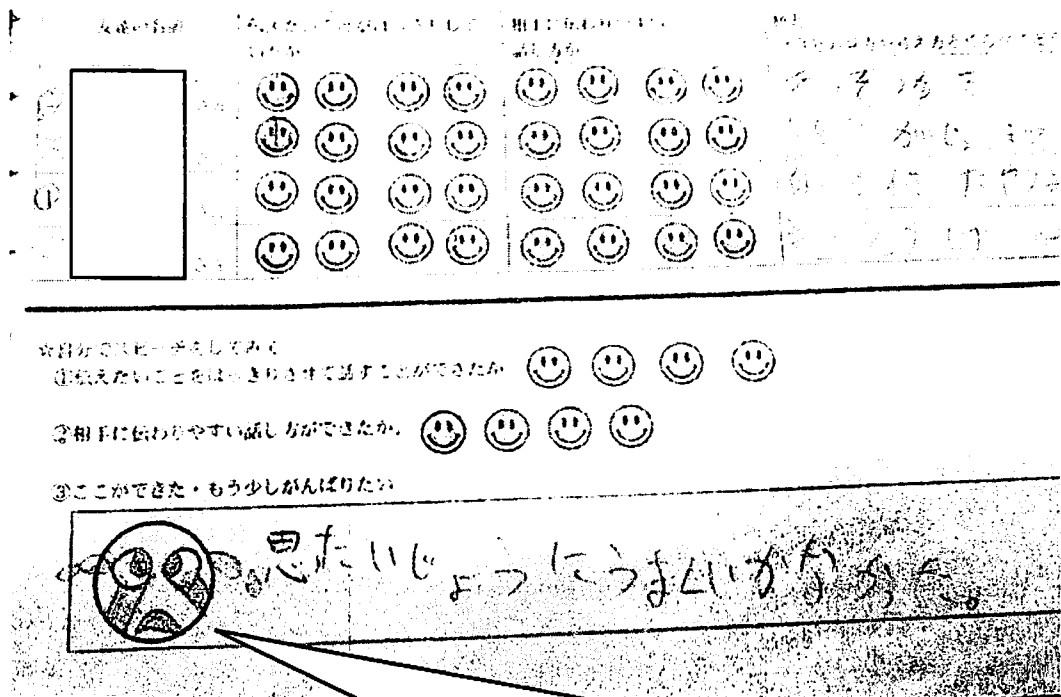
教育出版
ひろがる言葉小学国語 4 年(上)

【資料4-3】振り返りカード



○に色をぬることで友達のスピーチを評価した。
感想も記入するようにした。

自分のスピーチに対する自己評価を表情で表した。
この児童は、相手に自分の説明が伝わりにくかったと振り返っていた。



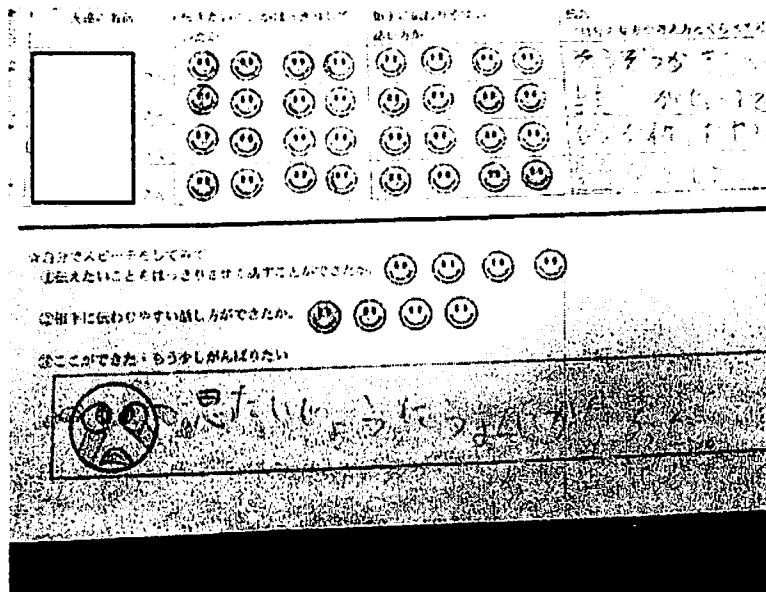
発表前はとても自信があった児童の自己評価
実際に話してみると分かりやすく伝えることは難しかったようだ。

<仮説1手立て2-(4)>

【資料4-6】振り返り

〈1回目〉友達同士のスピーチの

振り返り



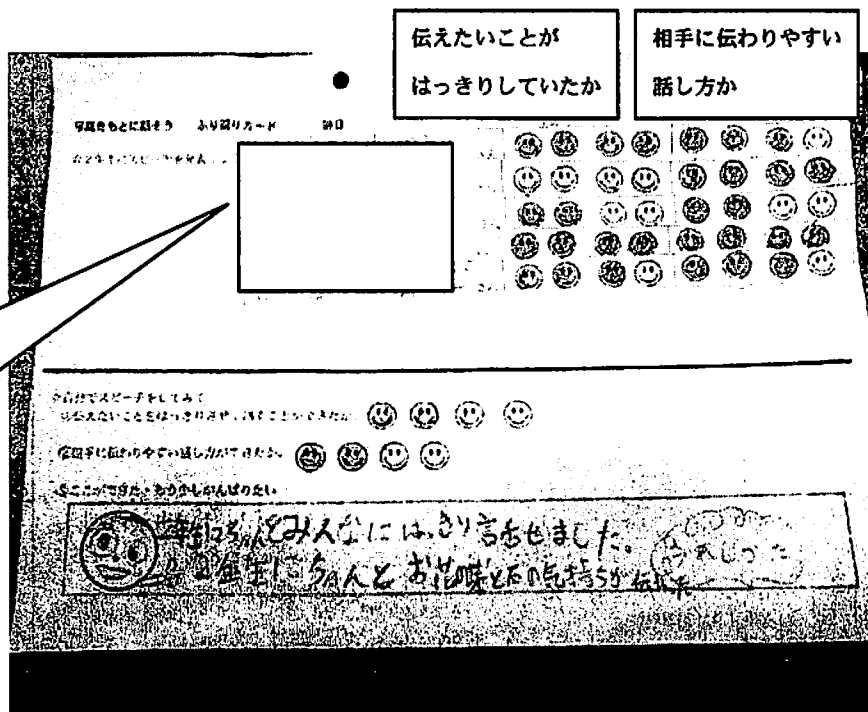
2回目の発表までの手立て

- 1回目のスピーチの反省
- 話す相手を意識
 - ・話す内容
 - ・話し方
- 伝え方の工夫 (タブレット)
- 話す練習
 - 個人
 - ↓
 - グループ
 - (友達からアドバイス)



〈2回目〉2年生へのスピーチの

振り返り



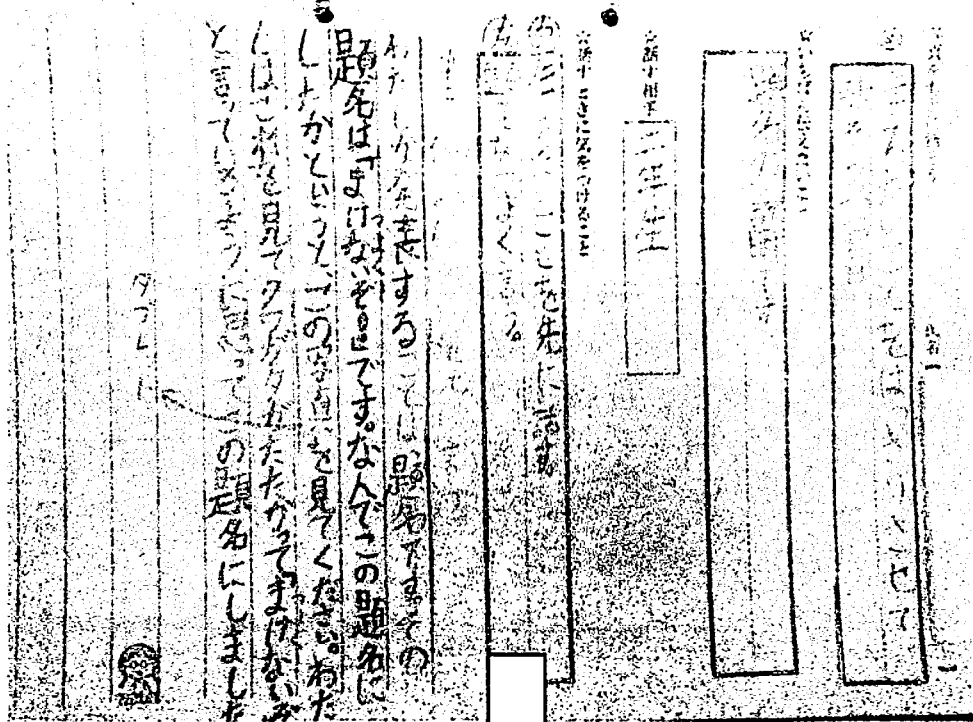
2年生からの評価

<仮説1手立て2-(4)>

【資料4-7】6年生に向けてのスピーチ原稿の作成

〈2回目〉

2年生への
スピーチ原稿



〈3回目〉

6年生への
スピーチ原稿

原稿を書き終えたら、伝えたいことが明確か相手に合わせた内容かを確認した。

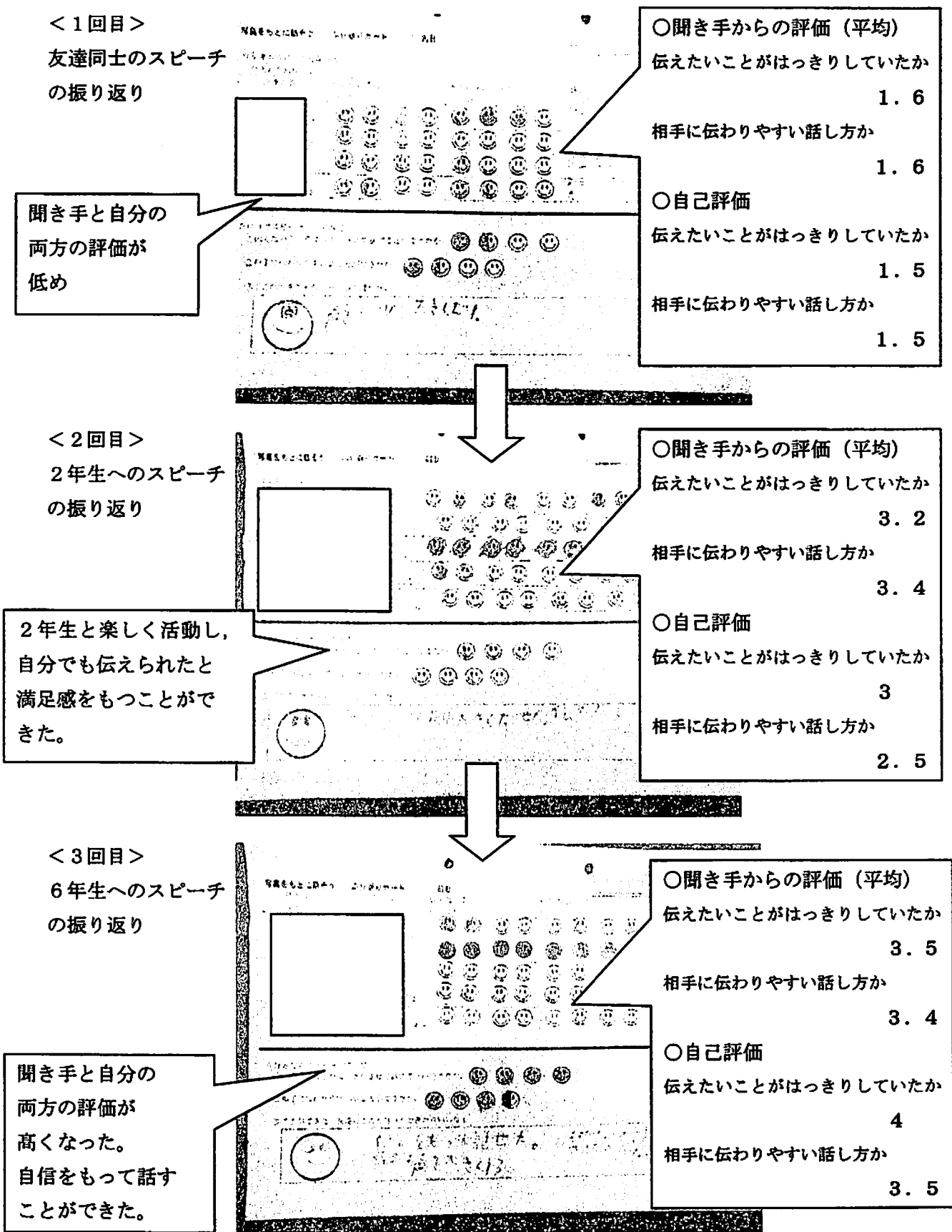
〈仮説1手立て2-1(2)〉

2年生には短くした説明を初めにメモに書いた詳しい説明にした。
6年生なら意見を言ってくれそうということで、質問をしてみることにした。
6年生に話し方のアドバイスを求める児童もいた。

○ 付けたした部分

<仮説1手立て1-(2)>

【資料4-9】話すことに対して苦手意識をもっていた児童の変化



<仮説1手立て2-(4)>

【資料6-1】児童から出された1年生の印象と川上小のひみつ

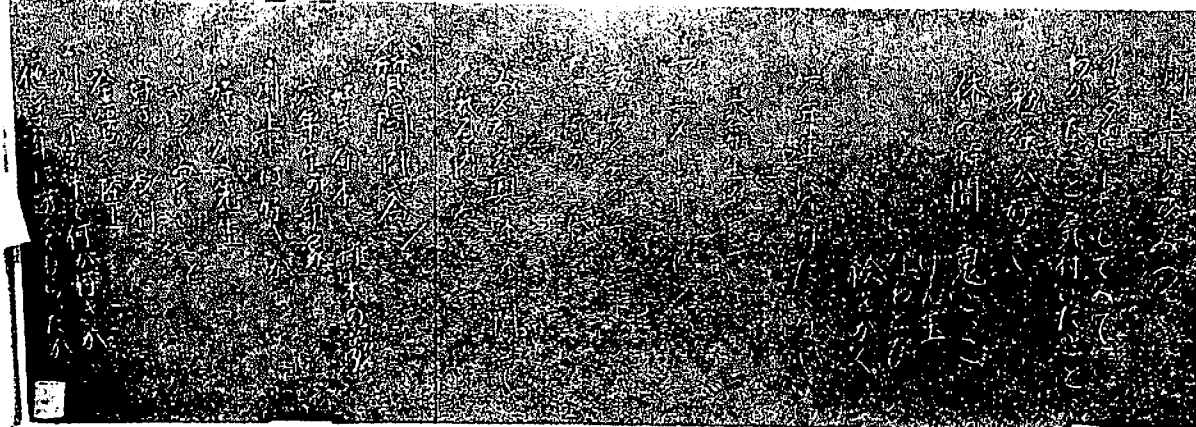


【資料6-2】1年生への取材の様子



1年生ということで、自然と視線を合わせて話
をしている。1年生が何に興味をもっているか、
一生懸命聞いていた。言葉遣いも自然とゆっくり
ていねいになっていた。結果をまとめてみると、
自分達の想像とは少し違っていったようだ。ここか
ら、何を伝えることがよいのかという話し合いに
つながった。 <仮説2手立て2-(2)>

【資料6-3】インタビューをして



【資料6-4】児童Eのインタビューの変容

長園と校内ニュース

| | | |
|--|---------------------------------|--|
| <p>長園と校内ニュース</p> <p>1年生が楽しんでいる時間をもっと楽しいものになるようにしたい、という考えだった。</p> | <p>川上小のひろびろとした校庭(長園と校内ニュース)</p> | <p>長園と校内ニュース</p> <p>1年生が楽しんでいる時間をもっと楽しいものになるようにしたい、という考えだった。</p> <p>学校はよかったです。1年生も楽しんでいます。</p> |
|--|---------------------------------|--|

【資料6-5】グループ分け

- 1・校外学習グループ①
- 2・校外学習グループ②
- 3・運動会グループ
- 4・あいさつグループ
- 5・遊びグループ①
- 6・遊びグループ②

1から3を選んだ児童は、自分達が楽しいと思っていることを伝えたい、という考え、4を選んだ児童は、今学校で大切だと思うことを伝えたい、という考え、そして、5や6を選んだ児童は、1年生が楽しいと思っている時間をもっと楽しいものになるようにしたい、という考えだった。

【資料6-6】資料づくりと練習の様子



遊びグループ

話し合いの内容例 [校外学習グループ①]

- A・・・どんな発表がわかりやすいかな。
 B・・・模造紙にまとめればいいんじゃない。
 C・・・そうだね。(決まりかける)
 A・・・でも、それだと全部伝えたいことがわかってしまって面白くないんじゃない？
 B・・・そっか。クイズとかも見えてしまうしね。
 C・・・じゃあ、どうする？
 A・・・紙芝居の形はどう？次に何を話すかわからないし。



あいさつグループ

「こんなあいさつされたらどう思うかな？」

運動会グループ



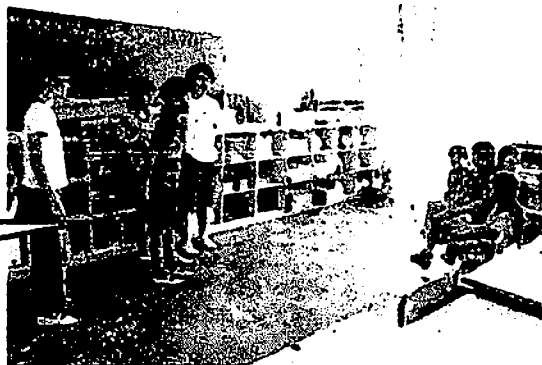
「よーし。じゃあ、ここで玉入れの練習をしてみよう！」

遊びグループ①は、最初に自己紹介をしていた。教師側としては、発表時間も少ないし、大きな名札も付けているので必要ないのではないか、と考えたが、このグループで紹介したい遊びが名前を使うものだったため、ここでは必要な項目であった。6年生なら覚えられるところだが、1年生は難しいという判断のもと、自己紹介と名札作成という案を実践していた。グループでの話し合いの結果である。



遊びグループ①

「今から、遊びの紹介をします！」



【資料6-9】児童Aの振り返り

川上小のひみつ
 一年生への発表に向けて
 エ夫レたこと
 中、くり話し、いさよんはこと発表やに聞く
 ニ、一年生の反応
 分かったってま、てくれ
 たりしてた
 三、実際に発表して思ったこと
 (いさよんはこと手をあげてくれたり、分かりました) (いさよんはことはいっていら一年生がいたりしました)



遊びグループ②